

附
句
追
全

文 研
911.4
A26



附句
 相繼
 全

早稲田大学大学院
 文学研究科図書

日本文学共通
 実験実習費
 55-00540

两判
 二千有廿五吟

一番
 二二
 葛西一江

心
 心
 心

上仙

濃香
 九點

蜀江錦
 十一

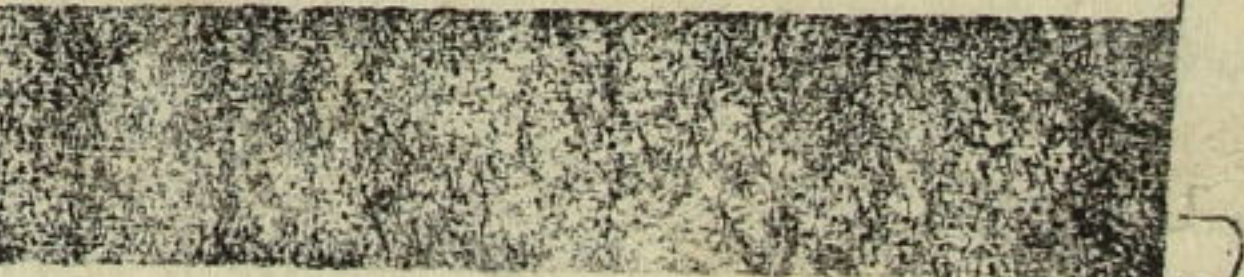
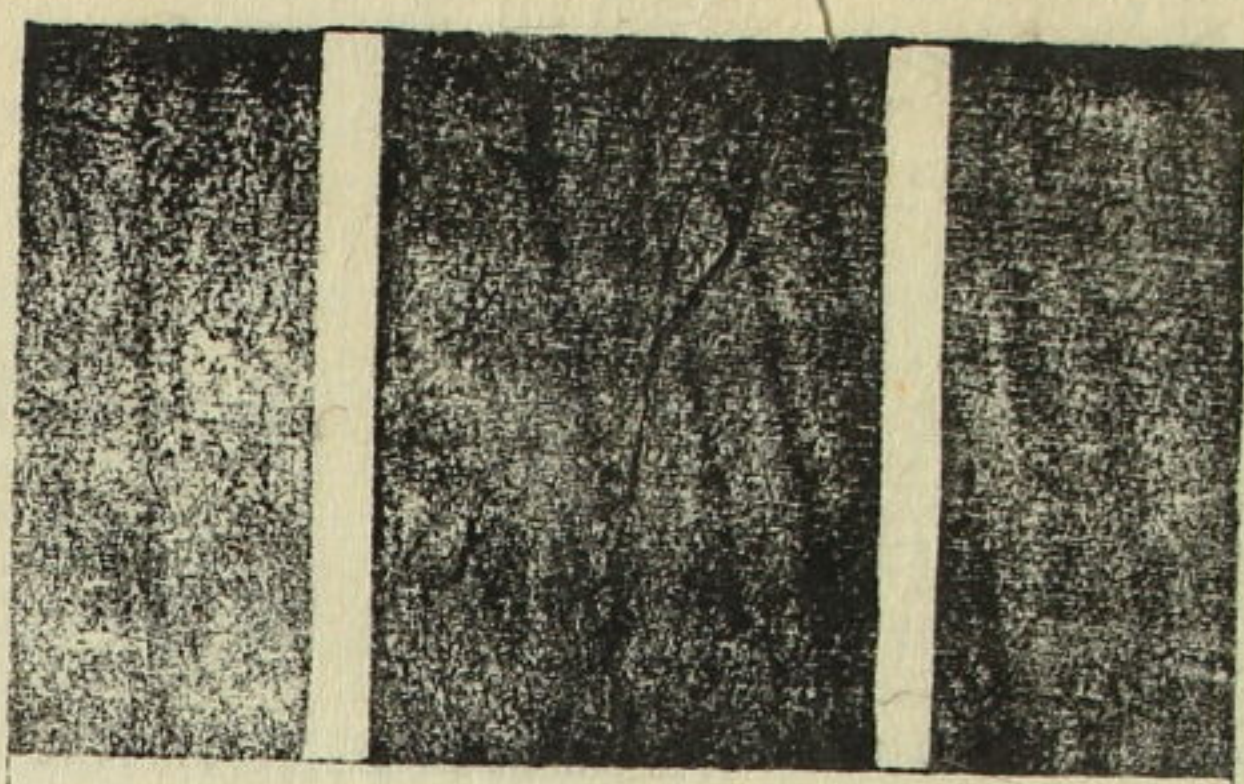


紅絲石 十一

吳綾 九

結わゆる

方尚



十三 白刃短 雪裏
 十四 一谷子 破扇
 十五 鈍子 我水
 十六 加嶋 井水
 十七 橋子

十八 上格出書 牛帆
 十九 岩洞 井石
 二十 山形 好水

二十一 不皿
 二十二 鏡鏡子
 二十三 常盤子

二十四 岩洞 山形子
 二十五 岩洞 阿比比子
 二十六 山形子
 二十七 阿比比子
 二十八 松本子
 二十九 岩洞
 三十 中西子

三

耳のぬ
 三のまふ町
 赤の色

四

坊の子の
 下髪
 尺さき
 高瀬子

五

七味
 七味
 七味
 七味

此の
 七

九

紫の
 二の
 物置
 十

六

此の
 十

八

七の
 七の
 七の
 七の

足袋
 足袋
 足袋
 足袋

落の多し包じし少くあるは
 空のあらしやうは海舟の徳
 舟のあらしやうは海舟の徳
 舟のあらしやうの徳なりと
 死なざるやうに詩風風
 くのぬめり字前の踏踏り
 物向はた物あまらふ貧乏
 徳もや抱揚りくはるる條
 ちのあまらふはるる水
 下れば幾と何處の徳も中

廻雪 清風 梅府 沢水 其柳 風石 林月 曉杏 和隨 梅邊

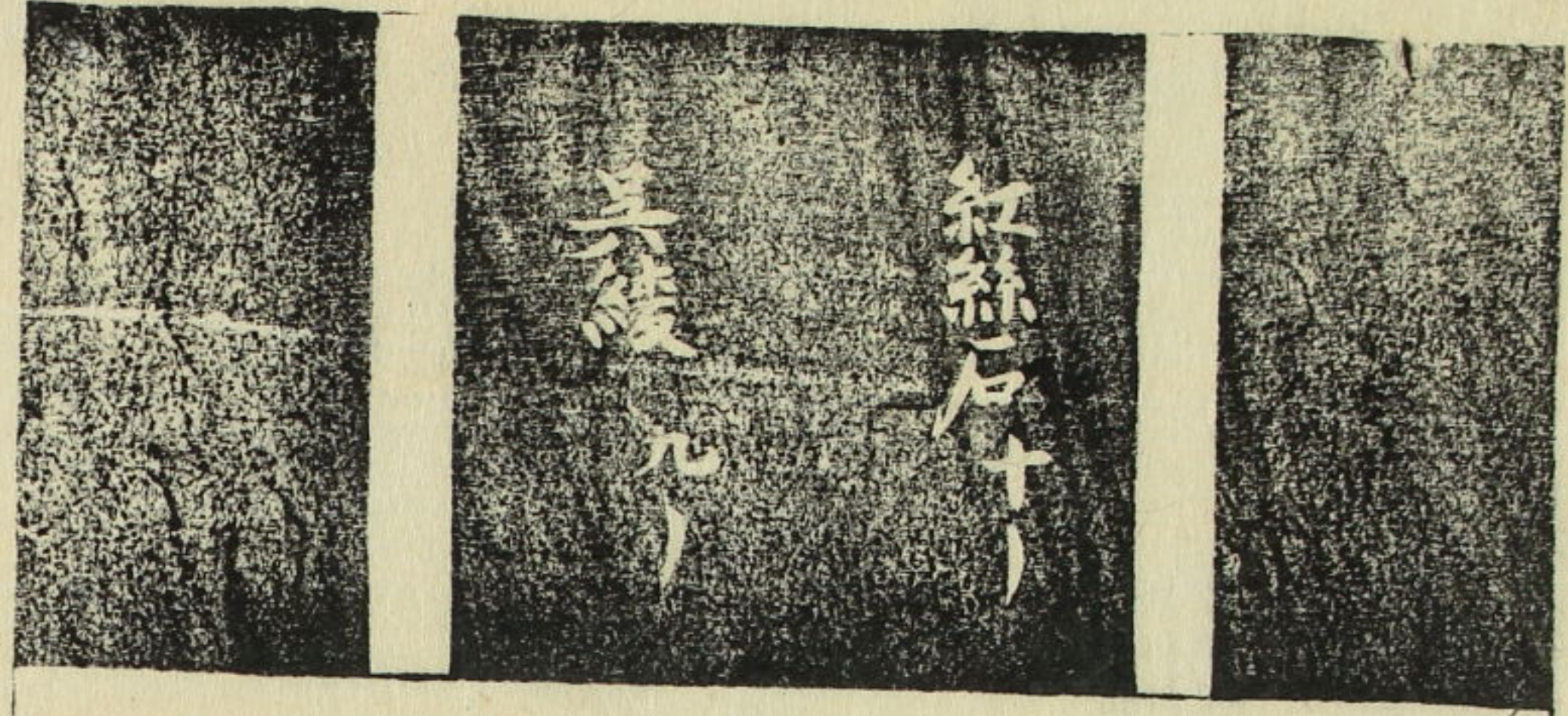
西判

辛巳十月廿日限

- | | | | |
|-----|---------|-------|--------|
| 廿一番 | 六、行住 豊政 | 十一、旭寺 | 十九、別勝江 |
| 廿二番 | 七、山形 不白 | 十二、米沢 | 廿、伊勢津 |
| 廿三番 | 八、松本 更幽 | 十三、露屋 | 十七、扇邊 |
| 廿四番 | 九、朝湖 | 十四、山形 | 十八、堀前 |
| 廿五番 | 十、口少 | 十五、不惑 | |

三つと明けり
 ハニナ
 立雅





連唎式千百余



長けりゆふ
あひまわりの

田所長瀬
良真

三

くわつるも
虎や
竹所
獸炭

四

こまこま
水鏡の
かた

六

初めはくちや
信之

七

藤持
二度月

五

あゆみ
初松栢

八

さくらんぼ
遠くは境

十

梅原丸
標がら

九

松尾
浄袋

第十一番ヨリ中番迄

旭ふらに白蓮花の体果しく
履の底の切てもさくらみりの長
佛はとくくは神の心く
とよの心くあはれ指の心
ぬりじく礼の心く
富まるとは保の心く少給
此和讃の南無とやまの心く
而も小指の心く
我持の心く人の心く
二の心く

素琴
文隣
栗白
洞水
些雪
無色
和凍
止水
古鑑
花雪
番外一吟

兩判

己十一月五日限

一勝 市谷◎与
二と 越長与

水い水い心し子風

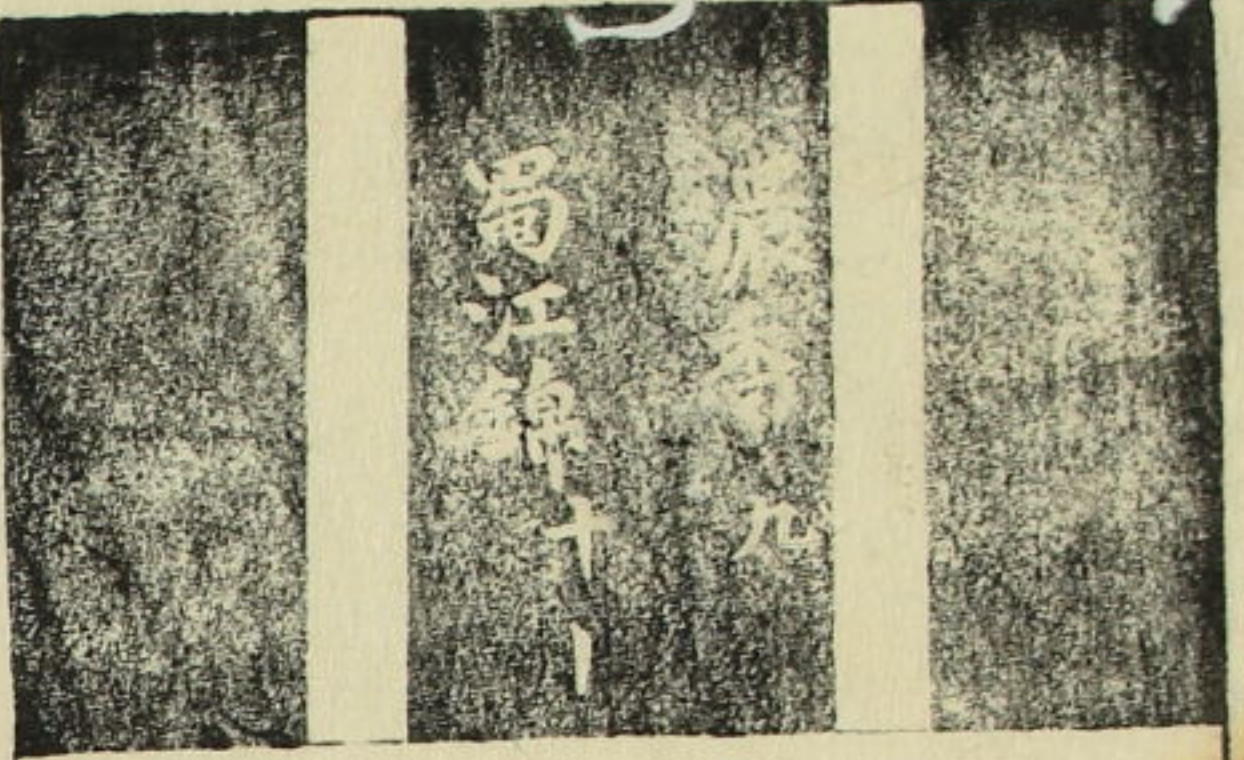
紅絲石 十矣

呉綾 九一



音
凡細
と保乃
去

和正



才一番
才二
才三
才四
才五
才六
才七
才八
才九
才十
才十一
才十二
才十三
才十四
才十五
才十六
才十七
才十八
才十九
才二十

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、

總連式千二百十三路

二

本の精凡
雄カ登リ
活カ有ル

七

は船中し習地

庵カ有ル
わカ有ル
寺カ有ル

十

寺カ有ル
岸小町
庵在権

四

常カ有ル
足カの
足カ有ル
退

五

人我
延曆寺
園城寺

九

金石カ有ル
寺カ有ル

六

早カ有ル
庵カ有ル
細代カ有ル

公中准右

一任の物々もとまらるり
油くと部として遠くを浦
あつた心室と家の中
家々をうろたふ代り人少
烟烟のともみりん早髪作
あつた平川にけりふこ時向
あつたのともはらり魚肉とり
あつた松のたけふ庭の隈
あつた松のたけふ庭の隈
あつた松のたけふ庭の隈

好元
易啓
展倫
蟻挺
腐糊
杏程
破扇
一二
些雪
濯口

兩判 己十一月廿日限句帳

- 一 小松川
- 二 銚子亭
- 三 常盤清風
- 四 伊勢丹夕
- 五 濱下鉤玄
- 六 白鼠風和
- 七 加賀素鷗
- 八 熊谷正勝
- 九 福嶋文角
- 十 勝沼
- 十一 松山
- 十二 旭子
- 十三 岩淵
- 十四 岩淵
- 十五 岩淵
- 十六 岩淵
- 十七 岩淵
- 十八 岩淵
- 十九 岩淵
- 二十 岩淵

夏鹿

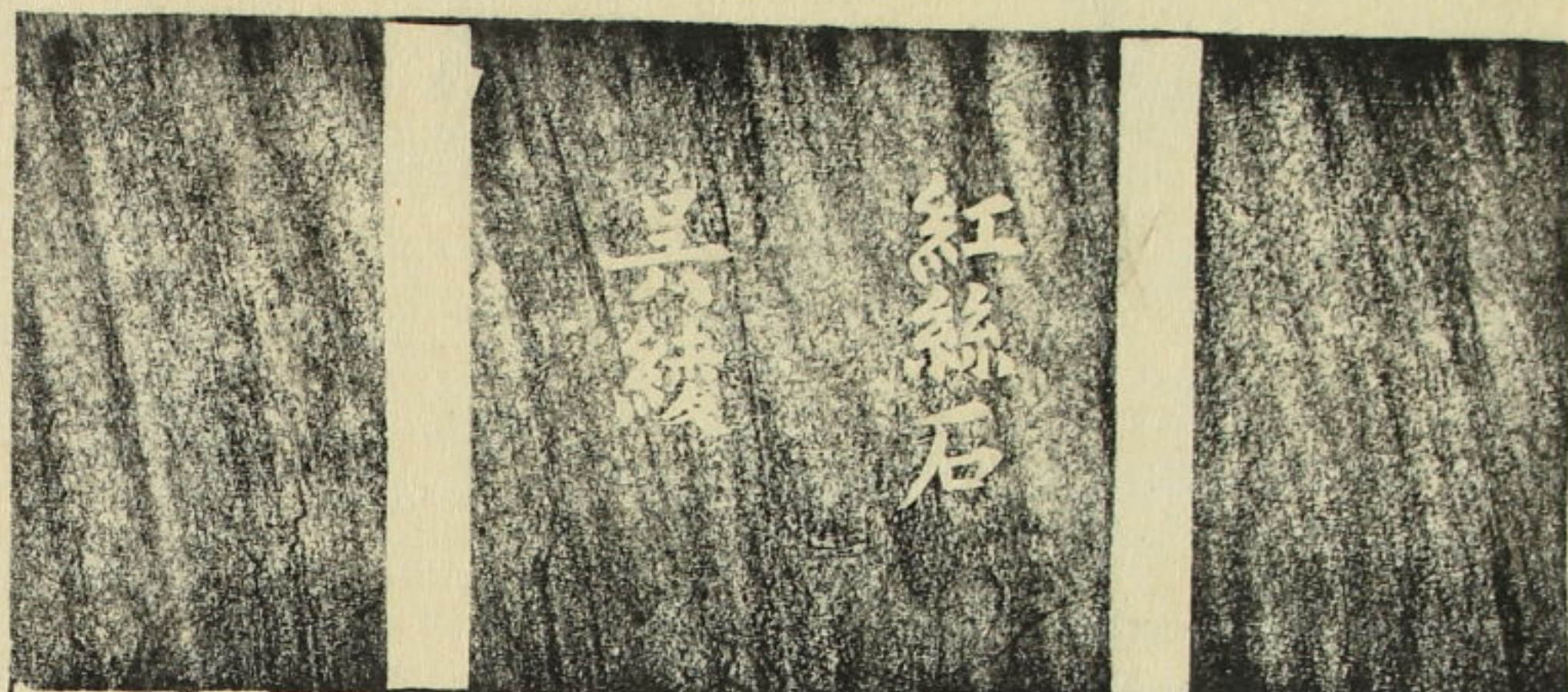


吳綾 九

紅糸石 十

府小せん厩

鳥



連式千三百五吟



水

井水

三

木の位
かひり
しるを
紫舟と

八
あのを
ま
酒の
まを待

四

あのを
まを待

五
あのを
まを待

九

あのを
まを待

七
水

六

廣長の
あのを
まを待

十

あのを
まを待

准右

錦建の所より死かきけ白澤夜
渡ぬむ万里とふらるる唐風の蚊
柳さくは兵隊の国をやまらや
ねのまじ色しじつり浪はらり文
橙や遠きもし照りのと離れ
多きわのわの所あり共し
比のそんれけ制とれと源九帝
流布すしりり賢方よ西ち寺
くくやもあ魂の存にや
平色九字もあ怪の神り程

勇志
蛭少
秋風
林鶯
野水
未覚
ト氏
安雪
葉也
外夕

巳十二月五日帳

二千三百八十餘金

井番勝同点位劣匭負十二金アリ

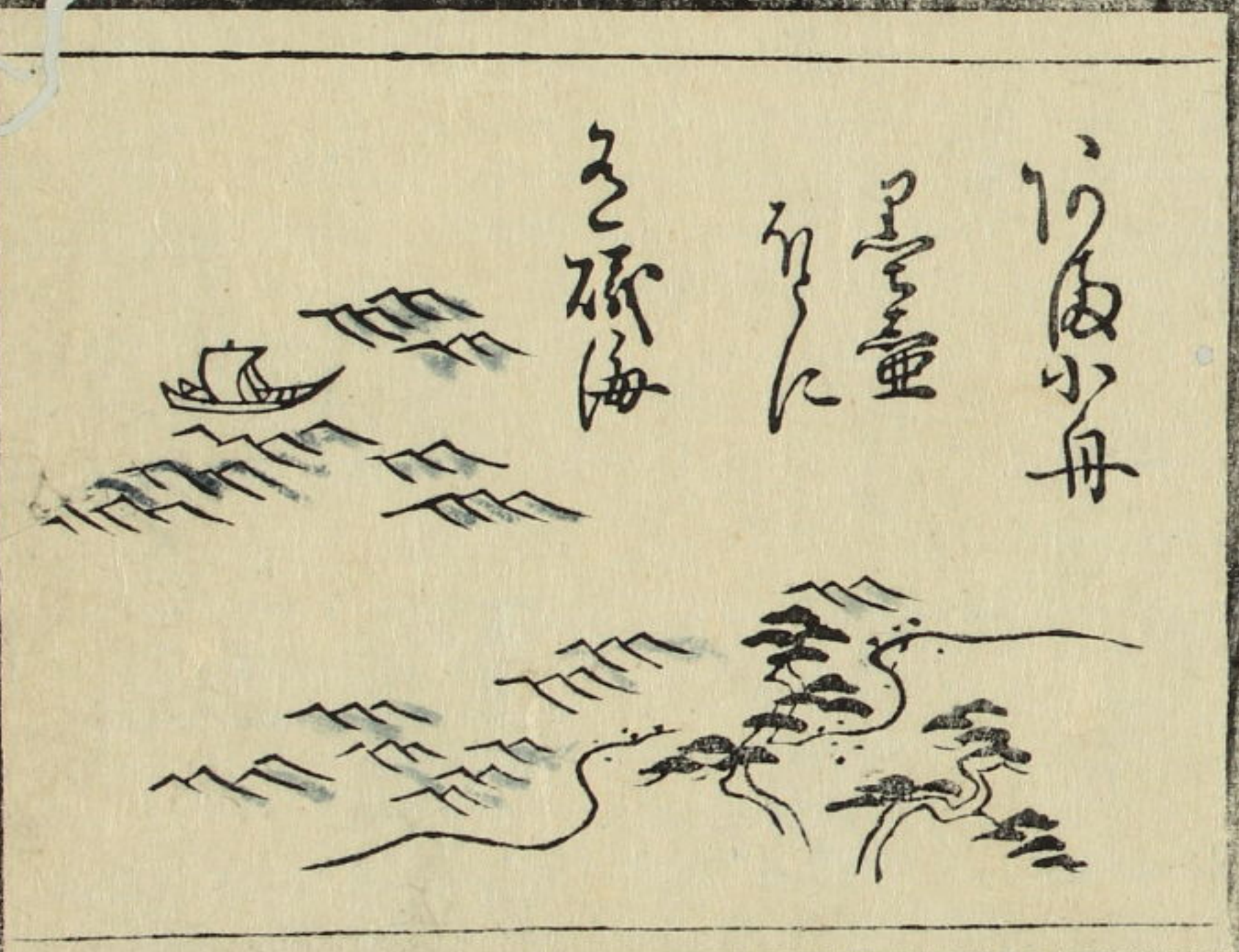
旭
東若

蜀江錦

日

紅絲石

十点

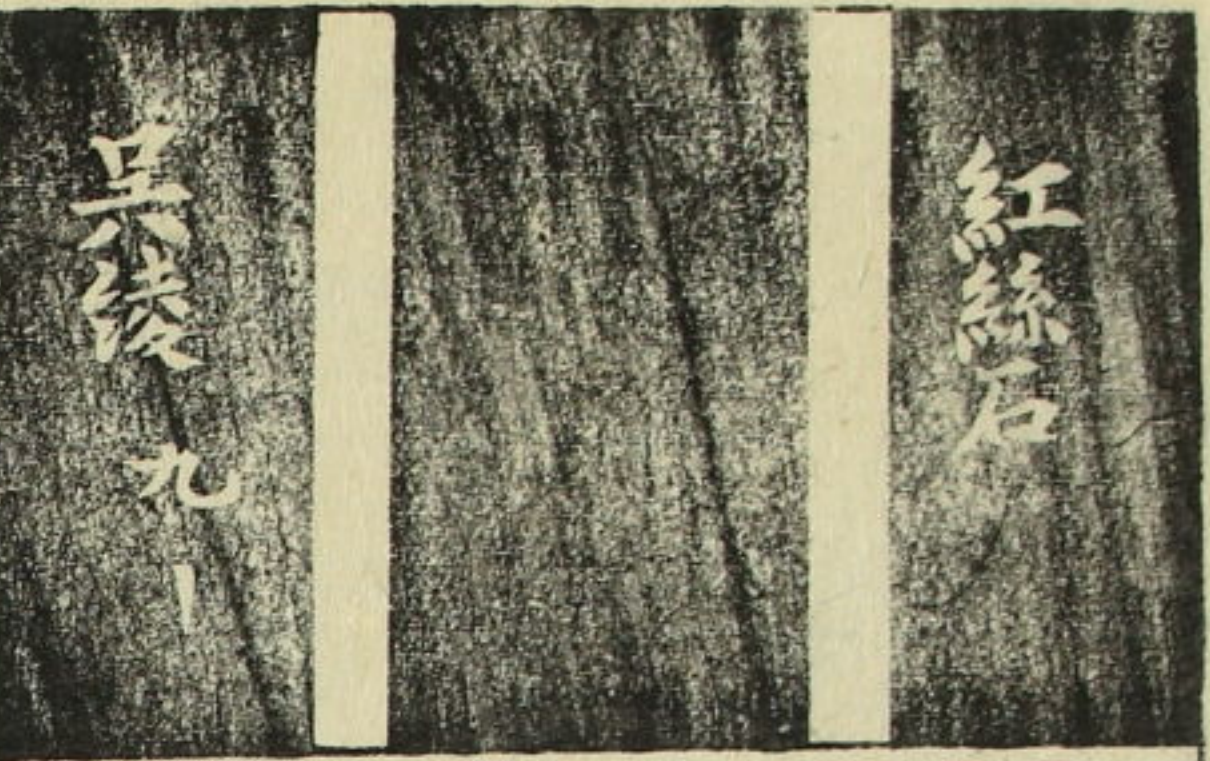


いぬ舟

墨壺

之破海

紅絲石



岩淵 安全

吳綾九

茅一番 江戸

茅二 鬮

三 勝沼 鈍蛙

四 市谷 百之

五 越長 芦角

六 三丁 蟻少

七 山形 蒼虫

八 甲陽 諷志

九 武府 其柳

十 二丁年 惠巖

十一 小盆 十六 山形

十二 行徳 腮風 十七 常列中門

十三 其柳 十八 一ナリ橋

十四 可水 十九 鴉河加嶋

十五 備前 嵐夕 廿番 〇 紐

三

三
三
三
三
三
三
三
三
三
三

八

八
八
八
八
八
八
八
八
八
八

十

十
十
十
十
十
十
十
十
十
十

五

五
五
五
五
五
五
五
五
五
五

七

七
七
七
七
七
七
七
七
七
七

九

九
九
九
九
九
九
九
九
九
九

十

准

南七河は遠き道の大年移御の大
 老の過トカ東東来れり少遠し
 梨子使度、ふりふりの所の流
 香と融て山月と遠きまのあ
 翠嵐の山々ももふふ老の岐
 白くはつて腕キ虎耳ナ柳
 玉花の可蓋と鏡ふ眉のり
 娘ふと吹雪と十の指組と
 解キふれり暮雪とふり
 月と心と柳と霞との定は候

小盆
 腮風
 其柳
 可水
 嵐夕
 素白
 柳條
 枕室
 省和
 坐之

辛巳極月廿日限

- | | | | | | | | | |
|-----|----|---|----|----|----|----|----|----|
| 赤一番 | 山形 | 六 | 梅雪 | 十一 | 加嶋 | 正勝 | 十六 | 市川 |
| 才二 | 山口 | 七 | 素白 | 十二 | 備前 | 周救 | 十七 | 旭子 |
| 才三 | 赤石 | 八 | 其柳 | 十三 | 阿比 | 些雪 | 十八 | 薩戸 |
| 才四 | 二所 | 九 | 中雲 | 十四 | 江 | 方尚 | 十九 | 其柳 |
| 才五 | 熊谷 | 十 | 友松 | 十五 | 鹿 | 柳 | 二十 | 柳仙 |

紅絲石 十占

吳綾 九一



三

片の
玉の
葦の原

神の
神の
神の

五

火の
火の
火の

火の
火の
火の

六

七

火の
火の
火の

九

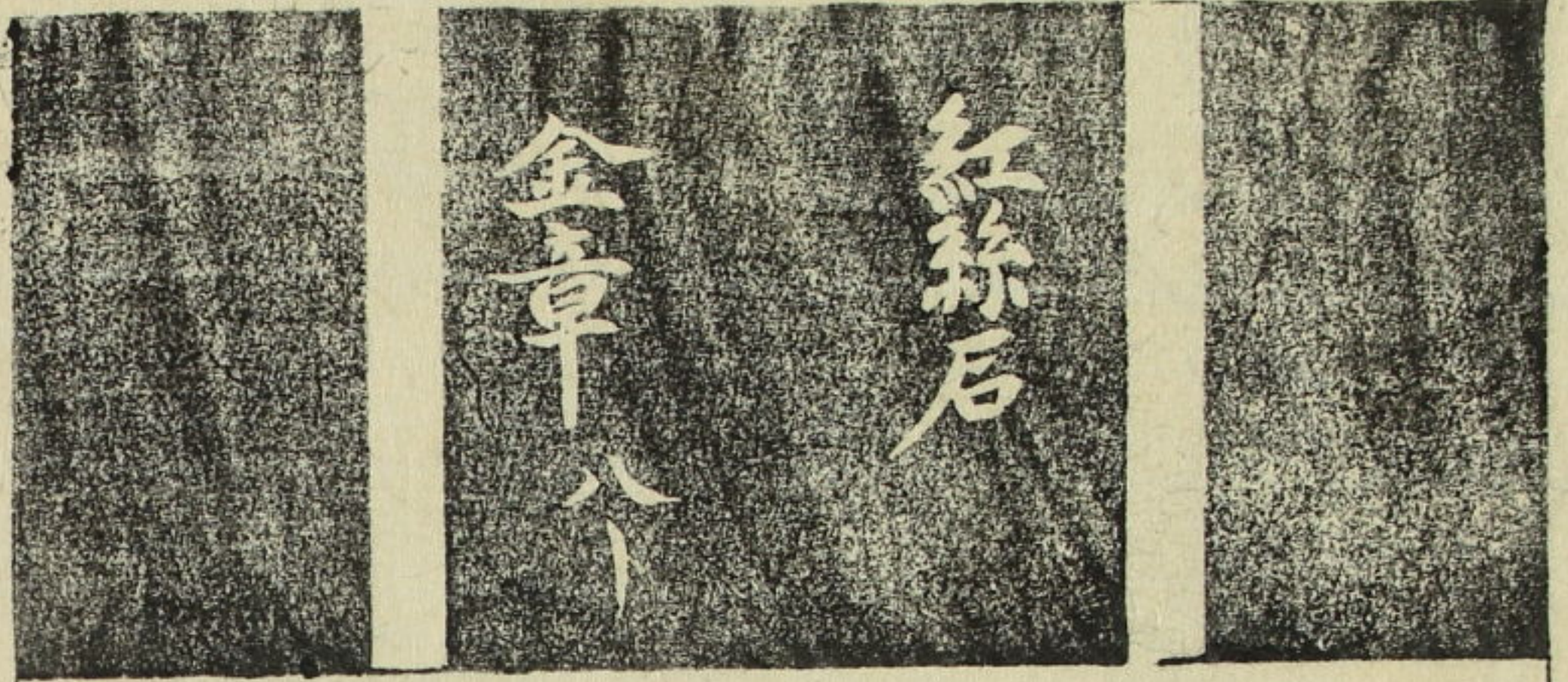
火の
火の
火の

八

火の
火の
火の

火の
火の
火の

三



連千七百余吟



らり
白芷

二

形或くまけり危うす鏡
 後つら八十八の年一祀^{ニ井ナ}
 初撰しんじりし地卜り予
 多岐をりし制しりし國の法
 捨出り少揚が耳と出り五穀
 一國の名も侍志人伊多れ欠
 一しんじり安後徳の歯しる天
 口の浦邊を撰とふ侍御の法
 多岐しりし地とつらくまけり念
 杜る鳴りし地とつらくまけり

正勝 周救 些雪 西翁 方尚 丹夕 千里 醉月 屏紅 其柳

兩判 壬午歲正月廿日限
 二千百七十余金


自由也るら
 揚柳

<p>蜀江錦 ^{十一}</p>	<p>兩朱 八真</p>

白也なりきり
 ちゆのあしきり
 其柳

紅緑石 十一	金章 八
--------	------

ワリッ
 キサゴ
 細麻の
 仲は海



- 才一番 結城与
- 才二 所弓町
- 三 備前 理外
- 四 熊谷 庄 船
- 五 山形与 琴浦
- 六 江尾 無式
- 七 松本 松色
- 八 山形 風石
- 九 柳原 羽舟
- 十 加嶋 美疑
- 十一 村上
- 十二 甲陽
- 十三 旭与
- 十四 羽加 長古
- 十五 市川
- 十六 松山与 大坂ヨリ
- 十七 肥前 扇嶋与
- 十八 羽島 系白与
- 十九 大坂
- 廿番 江尾

三

るもの
 行々
 盆乃石

九

二足り
 羽の
 与付

あふに
 ちの
 ちの

年
 長
 ちの

十
 ちの
 ちの

結
 解
 ちの

八
 ちの
 ちの

十
 ちの
 ちの

十四

幸如者小初柳... 心抄人
 正辰 破扇
 些雪
 可布
 風柳
 浮水
 梶嵐
 不白
 隨雨
 呷軋

- 第一番羽白岩 十一 夏鹿与 十六 信前松本
- 第二番阿佐比組 七 水戸鷺子 柳鶯 十二 深川松子 十七 尾花沢
- 三 加嶋 柳兩 八 熊谷 重清 十三 松山与 大坂与 十八 松山与 再
- 四 常島玉黒 錦糸 九 山形 不白 十四 白訂与 十九 八日市場 二与 丹
- 五 甲陽 古川 十 同前 意林 十五 青山与 廿番 御宿郷

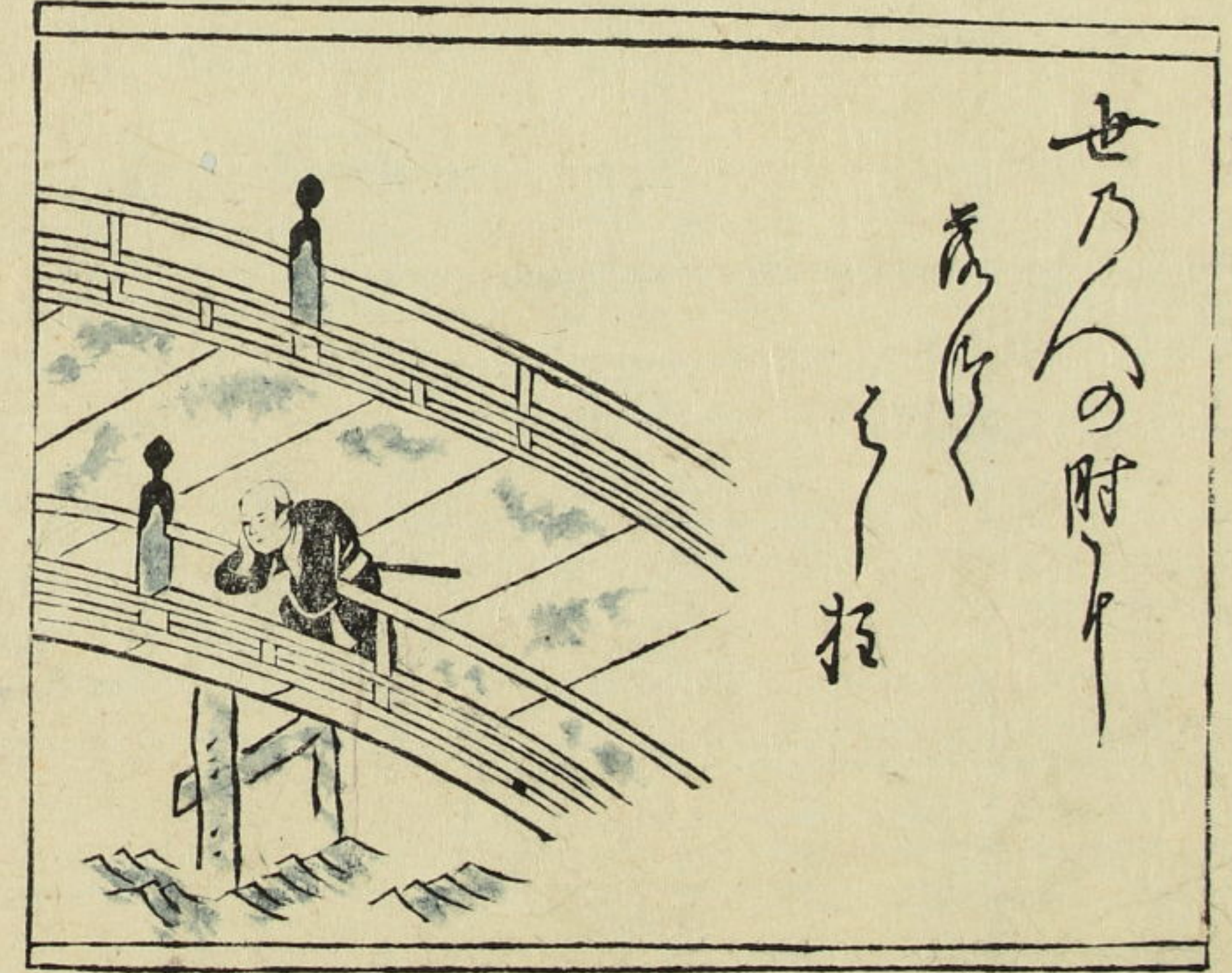
下つて紅とん 東し

紅絲石	蜀江錦
各十點	

はらりたる

旭志

濃書 九一	蜀江錦 十一
-------	--------



壬午二月五日限 連二千二百四十三吟

番外十三吟アリ 同点圖位あり也

三

るる
首の柳の
ふたふた

九

若く押しし
はらりたる

あはれ
〜
あはれ

十

らるる
〜
あはれ

由

雅一の
うらやま
花う

五

明極の
あはれ
はらりたる

七

和歌の
あはれ

十六

老僧の
あはれ
あはれ
〜
あはれ

多し口も九人かまして後下
 一色もたつても言ふたはもつる重
 中しれらうししあらし
 ちもたせうウの難し静る香
 正業道は難し小斗とらん南
 くしりた相^{カタチ}肩をもつ新造の耳
 難の難しふ屋様了る前乃尾
 名はしつて難しいふと考る仇
 海ひとくしつらゆりく考陸帯
 難しの肩^{キリ}裁^{キリ}の中ら後所

和水
 一雨
 海荒
 東詞
 松皮
 松色
 蛟角
 浮水
 瓶瓢
 和吟

午二月廿日限句帳
 二千百十余吟

難乃よき小

谷山

紅絲石	十矣
吳綾	九!



是のよき世し
 麻下し 吟

此の紙を

カト

兩朱 八一

蜀江錦 十一



- 一 羽加松山
- 二 駿加鴻
- 三 肥前南里 本所与
- 四 深河松与
- 五 甲陽 哥笛
- 六 行徳 南梢
- 七 旭与 白翁
- 八 加駕 一風
- 九 伊勢 金鈎
- 十 勝沼 鈍蛙
- 十一 古習
- 十二 井居
- 十三 方尚
- 十四 素鴻
- 十五 永水
- 十六 夏雲
- 十七 和生
- 十八 調旭
- 十九 破扇
- 二十 女翁仲

三

八丁事年
お別
白ヤ
梓

七
おの
おの
おの
七曲

四

白紙の紙
小判の紙

六
おの
おの
おの
おの

十
水の
水の
鳥丸

八
橙
正二月

五
おの
おの
おの
おの

九
銀河
おの
おの
おの

一 山列々 業桑の庄敷枝
 二 別々 程々 年の終り
 三 山中の 空の 空の 空の
 四 宿所の 宿所の 宿所の 宿所の
 五 丁の 丁の 丁の 丁の
 六 さくら さくら さくら さくら
 七 清の 清の 清の 清の
 八 新の 新の 新の 新の
 九 木の 木の 木の 木の
 一〇 一 二 三 四

午三月五日限

才一 彦府	六、 玉雲	十一 八丁 俣口	十六 勝沼 川石
才二 伊勢	七、 山形 四日	十二 カサ 調子	十七 村上 風虎
三、 嵩 和随	八、 大坂 未及	十三 小見川 翁仲	十八 一丁 方尚
四、 加嶋 才木	九、 加嶋 橋子	十四 緑組 森松	十九 尾花 洞水
五、 露寺 甫心	十、 甲陽 松盛	十五 カサ 雨文	二十 旭与 久糸

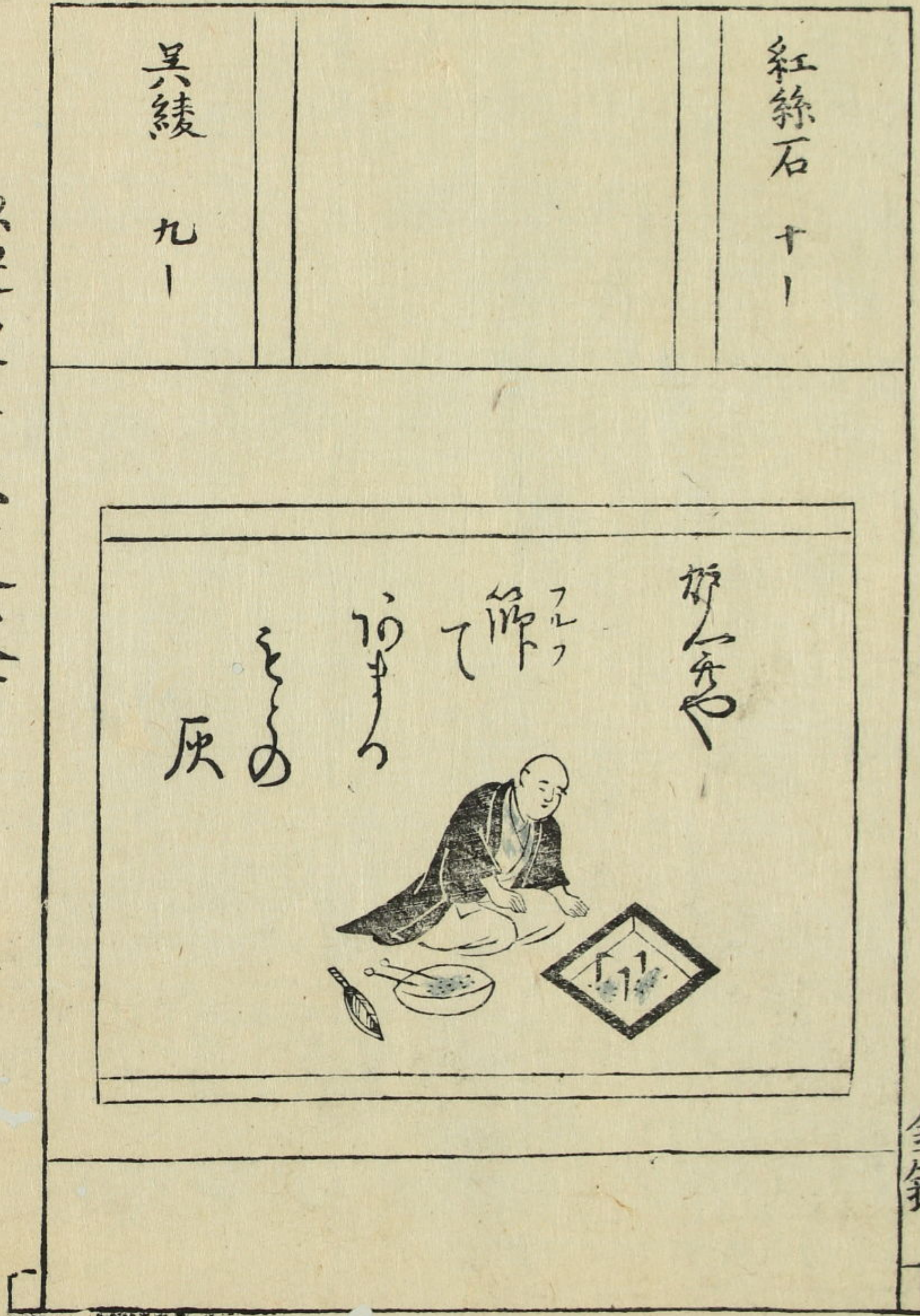
悠庵

紅絲石
蜀江錦
各十点



指先が
 肌を
 舌の

ういしりうか
津
金鈎



惣連二千有六十余咍

五

好んや
り
揚
石乃殿

九
長
新
乃
乃

四

八
佛
の
の

堂
の
の

十

到
の
の
の

五
た
の
の

六

水
の
の
の

七

堂
の
の
の

今口川の濁りぬき一橋の
 橋のふしの病と橋のふ
 幼津一母をりて人り馬をり
 以千代故にりてりり
 今口川の濁りぬき一橋の
 橋のふしの病と橋のふ
 幼津一母をりて人り馬をり
 以千代故にりてりり

久条 向方 風石 雨夕 毎科 調千 一口

午三月廿日限旬帳
 二千二百五十余金

今口川 洞水

<p>紅綠石 十点</p>	
<p>蜀江錦 全</p>	

しるし
卯羹



紅緑石
吳縷丸

- 一 山形亭
- 二 加嶋子
- 三 羽扇 隨雨
- 四 日松山 無真
- 五 福嶋 樽用
- 六 雲松野
- 七 岩割 政直
- 八 松竹 南島
- 九 米沢 風鈴
- 十 甲陽 素石
- 十一 山形言層
- 十二 庄内三有
- 十三 真川 里夕
- 十四 勝沼川石
- 十五 鑛木 鮎瓢
- 十六 水戸鶴野 谷風
- 十七 葛西 方尚
- 十八 常陸 常陸
- 十九 御所 其柙
- 廿番 深川寺 柙鳥

三

十石の
歌
ゆらん

少く
か
石
の
聖

う
は
の
初
日
の
了

初日
の
了

石
の
了

石
の
了

五

石
の
了

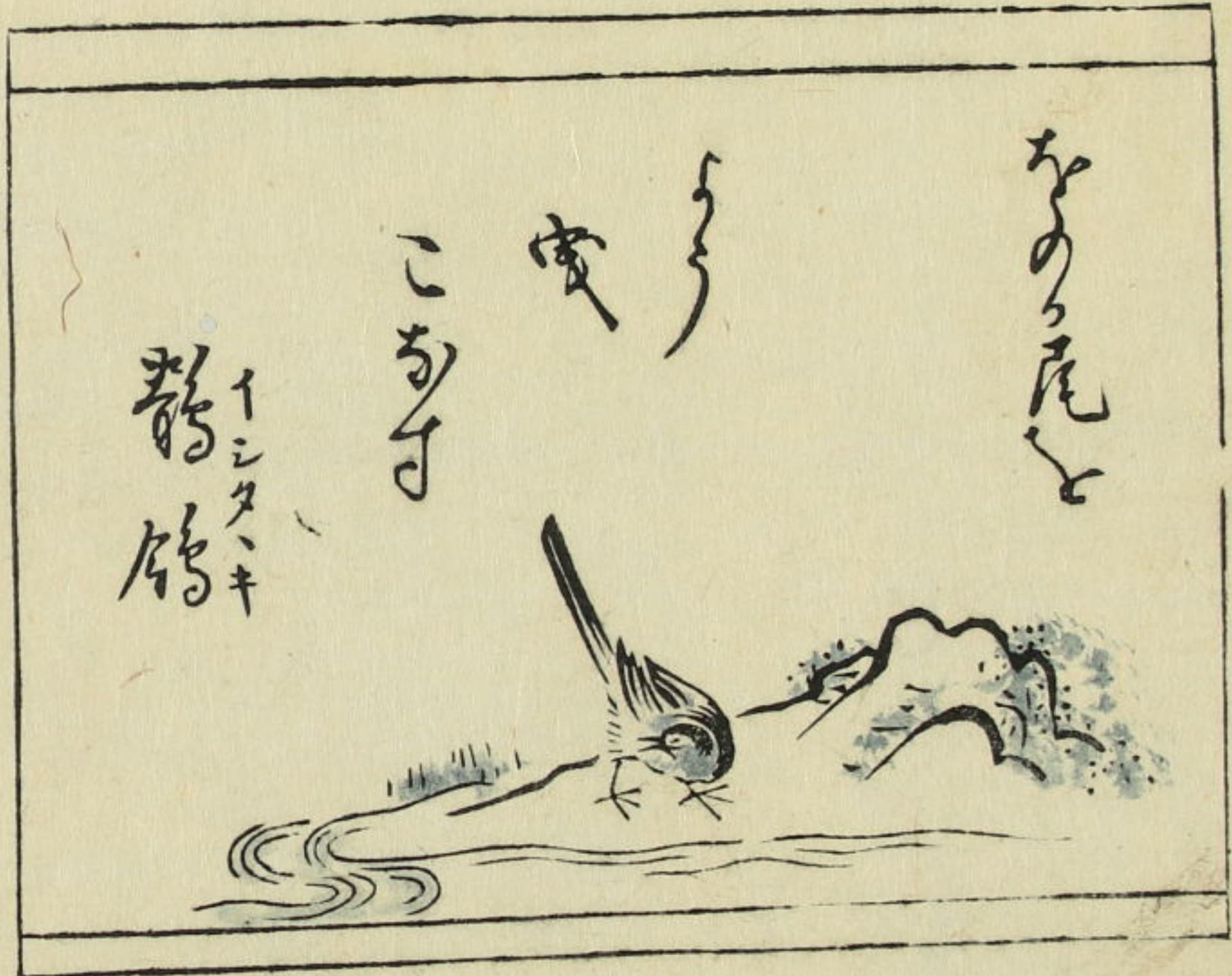
六

石
の
了

廿二

	蜀江錦 十一	兩朱 八一	
--	--------	-------	--

午四月五日限白帳
二千百七十余唎



なみの尾と

電
こゑす

イシタハキ
鶴

清くさるきり
調子

二
花の丸
一、枝を伝へん
一、指をさす

五
花の丸
花の丸
花の丸

七
人さす方信心あり

八
花の丸
花の丸
花の丸

六
花の丸
花の丸
花の丸

九
曲折ありて石丸あり

十
花の丸
花の丸
花の丸

十一
花の丸
花の丸
花の丸

古語の八座言の杖と振
 所への徳の或る及つた
 信じてるふれを物と踏く馬
 信じてるふれを物と踏く馬
 二神のりりり母の如神
 信の国の考りくく一と
 ららら内内内内内内内
 りりりりりりりりりりり
 りりりりりりりりりりり
 りりりりりりりりりりり

信子
 日月
 些言
 立形
 諸風
 不叶
 南鳥
 野水
 水石
 不寒

午四月廿日限句帳
 二千有八十余唸

こまのかりかり
 松盛

<p>紅絲石 各十点</p>	<p>蜀江錦</p>

和隨

紅絲石	吳綾 九一
-----	-------

一 舞の	二 舞小	三 舞乃	四 一家中
------	------	------	-------

- 一番 甲府
- 二 岩淵
- 三 行徳 南相
- 四 旭子 沢中
- 五 越前 和言
- 六 少の 交友
- 七 少カ 一蝶
- 八 少与 倫和
- 九 羽松 葉蟻
- 十 二郷半 好夕
- 十一 山形与
- 十二 勝沼
- 十三 加嶋
- 十四 鈍子
- 十五 松崎
- 十六 一七津
- 十七 山形
- 十八 結城
- 十九 芥末
- 二十 龍崎

三

此の
 此の
 此の

此の
 此の
 此の

七

此の
 此の
 此の

此の
 此の
 此の

五

此の
 此の
 此の

此の
 此の
 此の

十

此の
 此の
 此の

六

此の
 此の
 此の

尾を捲く今に於てを抄りて
 月日
 川石
 好古
 井水
 研志
 金物
 回古
 千九
 可留
 一葉

才一馬 六 松山 隨雨 十一 松崎 心水 十六 加嶋
 才二馬 七 尾花沢 香谷 十二 旭寺 曲祿 十七 松山
 才三馬 八 行徳 南梢 十三 山形 東乙 十三 甲陽 素石 十八 二郷半
 才四馬 九 甲陽 加嶋 十四 宇都又 秋用 十九 尾花沢
 才五馬 十 知言 正勝 十五 伊勢津 雅中 廿 山形
 才六馬 十一 村上 破扇 十五 松本 雅中 廿 山形

さくらん丸
 岩割
 一俵



紅絲石	吳綾
-----	----

午五月五日限旬帳
千八百八十餘吟



叔と丸

小見川
不帳

三
カス
の
...

四
...

五
...

六
...

七
...

八
...

九
...

十
...

十一

十平の航の海はを西巻
 りやう物やを巻きしり製
 花もやを巻きしり製
 御侍しる巻きしり製
 尺物や巻きしり製
 珍貴な巻きしり製
 はあゝ巻きしり製
 角巻く巻きしり製
 巻きしり製
 川舟よ巻きしり製

心水
 曲柳
 素名
 秋用
 雅中
 梅子
 梅露
 白糸
 青口
 花水

壬午五月廿日限旬帳
 二千有十五吟

一番 甲羽勝
 二番 永田馬場

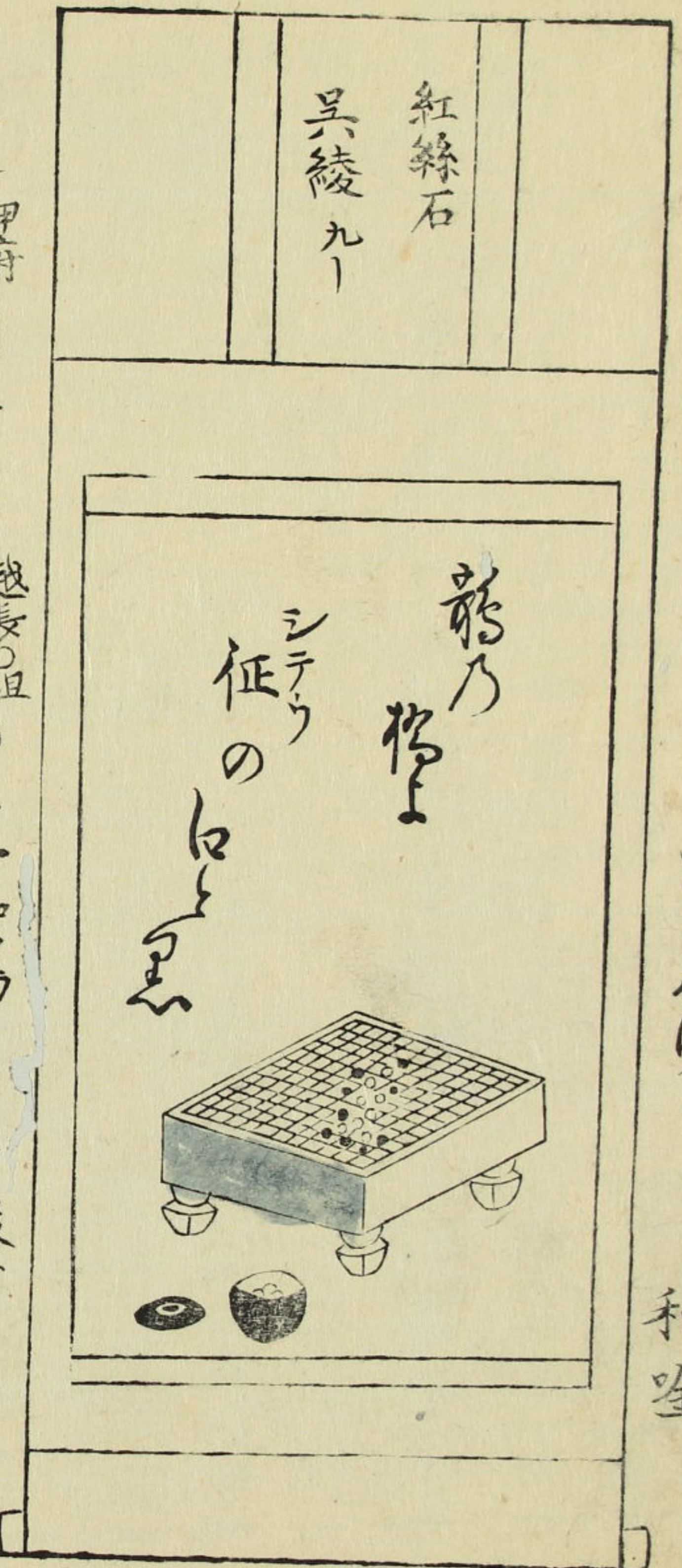
長成り

野水

紅絲石 各十点	蜀江錦
------------	-----

五文子
 色紙
 わきり

あつかりり
和塗



紅緑石
吳綾九

- 三番 甲府 調唯
- 四 山形 洞水
- 五 山形 松盛
- 六 山形 琴滴
- 七 越長組 松風
- 八 小松川 得失
- 九 加嶋 未詳
- 十 卯奏 十八松山
- 十一 加嶋 卯奏
- 十二 福嶋
- 十三 伊勢
- 十四 山形
- 十五 八市場
- 十六 駿府
- 十七 旭子
- 十八 緑子
- 十九 白訂子

三

多偶の歌
傳作
少月

四
解
響

六

五七
母屋手控

七
上三物
九轉

五
鷹
白
燈

九
音

八

八
相
川

十
尺
細

和同	早苗	雅中	柳仙	流木	杜良	董若	万山	秋久	元常
明徳也いしりて能事凡	ふんくしうりたの片くろも	一角いしりて少知り行かり	山崎いしりて目かゆきく袖海壽	いんちと能事いしりてあま	我屋いしりて佐のちりり	あまいしりていしりて林の足	鳥類いしりて今いしりて馬帽子	いしりてあまいしりてまき布	まき布いしりてあまの鈴

奇倦

立志

いさしは乃月や古き事ぬ二枚會は

跡をがえしてらん御座りり^り和英

物もやまよと負て毎に掉らりて調和

少のありは^{キセル}雄愛是^ル投^ル志

歴ふもらん^{ハシ}の席一隔られ^レ英

おれもく首は一分の損^シ和

ウ^ラ山おの髪さぬくよる甲^シ 志

よく首の文一^リ持て御刀^ノ 英

香眞乃枯く^クおゆをま^ス和

木^ノ根と持て^テ裁^テ短^ク人^ノ 志

こく作^ル答^ハこく^ク有^ル吸^ハとた^リかん^ト 英

儒醫洞達^シ一^ノ葛乃^ハ活^キ事^ナ 和

秋聲の雷ふ^キ今^ノを^シく^ク膝^ノ敷^キ 志

の^ハ日^ハ帆^ノ柱^ノま^シじ^シ存^ス方^ナ 英

片信百日月長鳥

山十中八半 松

和

似て忠吐守油断の籠り人

志

二婚作らんと妹を志すも

英

皆々哀情く河心結合

和

名

業の殿と心家老と十の也

志

志保と陸まを馬傷り高舟

和

枯草の物々をうと帛巾

英

清らく思ふみんぞゆ

志

是言よ思く親ふ石存りり

和

鼻つじゆりふ涙をほらば

美

二三所を白濁盡く死てしむ

志

とゆら流とほらぬ柳打

和

木月とあは月也水回の橋

英

遠樹枝をくくろふ一樹栗

志

一つ棧ヒツチ携へ信厚ら

和

徒く下りきり橋の折檻

英

い茶器、怪我の風流、朱漆の
茶乃の室、と、茂、塙元
ひらき、相と、茶人の扇、
しきく、洞、ひら、胡椒、
我輩者、ら、し、世、ら、ち、の、性、し、
字、子、す、あ、も、紙、し、お、紙

志 和 英 志 和 英

壬午冬

原業也

